

2026年1月29日

滞留水の貯蔵及び処理の状況概略

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

・建屋内滞留水水位は運転上の制限を満足

②1~4号機タンク貯蔵量

・淡水化装置による処理により、RO処理水(淡水)及び濃縮塩水の貯蔵量は変動あり
・蒸発濃縮装置は全台停止中

③5, 6号機滞留水貯蔵量

・構内散水によりFエリアタンク貯蔵量は変動あり

④廃棄物発生量

・除染装置停止中のため、廃スラッジ貯蔵量は変動なし

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

施設	貯蔵量	T/B建屋内水位
1号機	約930 m ³	- (水抜き完了)
2号機	約1,200 m ³	- (水抜き完了)
3号機	約1,240 m ³	- (水抜き完了)
4号機	約10 m ³	- (水抜き完了)
合計	約3,380 m ³	

貯蔵施設	貯蔵量	水位
プロセス主建屋	約9,510 m ³	T.P.924
高温焼却炉建屋	約1,900 m ³	T.P.-678
合計	約11,410 m ³	

(合計):+430[m3/4週] (合計):+1230[m3/週]

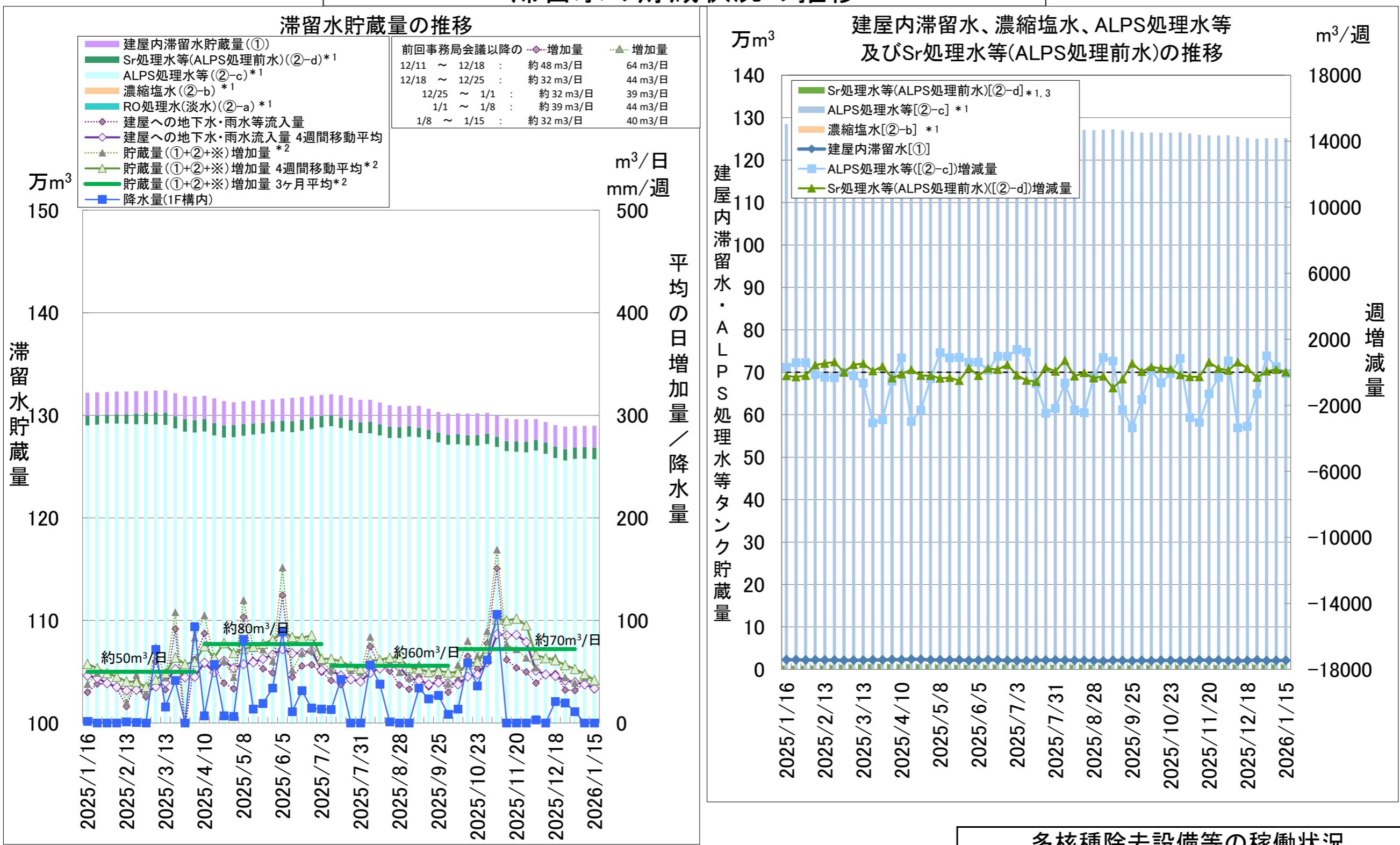
(合計):+30[m3/4週] (合計):+20[m3/週]

(合計):+110[m3/4週] (合計):-532[m3/週]

(合計):-30[m3/4週] (合計):-10[m3/週]

(合計):-10[m3/4週] (合計):-10[m3/週]

滞留水の貯蔵状況の推移



①: 建屋内滞留水貯蔵量(1~4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(A)、SPT(B)、1~3号機CST、バッファタンク)

②: 1~4号機タンク貯蔵量([(②-a)RO処理水(淡水)+(②-b)濃縮塩水]+[(②-c)ALPS処理水等]+[(②-d)Sr処理水等(ALPS処理前水)])

*: タンク底部から水位計0%までの水量(DS)

*1: 水位計0%以上の水量

*2: 汚染水発生量の算出方法で算出 [(建屋への地下水・雨水等流入量)+(その他移送量)+(ALPS薬液注入量)]、ALPS処理水の放出量は加味していない

*3: 多核種除去設備のクロスフローフィルタの詰まり等に伴う設備稼働状況によりSr処理水等の処理量が増減

多核種除去設備等の稼働状況

設備	期間処理水 ^{注1,4)}		定格処理量 [m ³ /日] ^{注2)}
	[m ³ /週] ^{注2)}	[m ³ /4週]	
既設多核種除去設備	0	0	750以上
増設多核種除去設備	0	1,929	750以上
高性能多核種除去設備	0	0	400以上
高性能検証試験装置	0	0	50
合計	0	1,929	

注1) 処理量は全て出口積算流量計から算出しており、薬液注入量を含む。

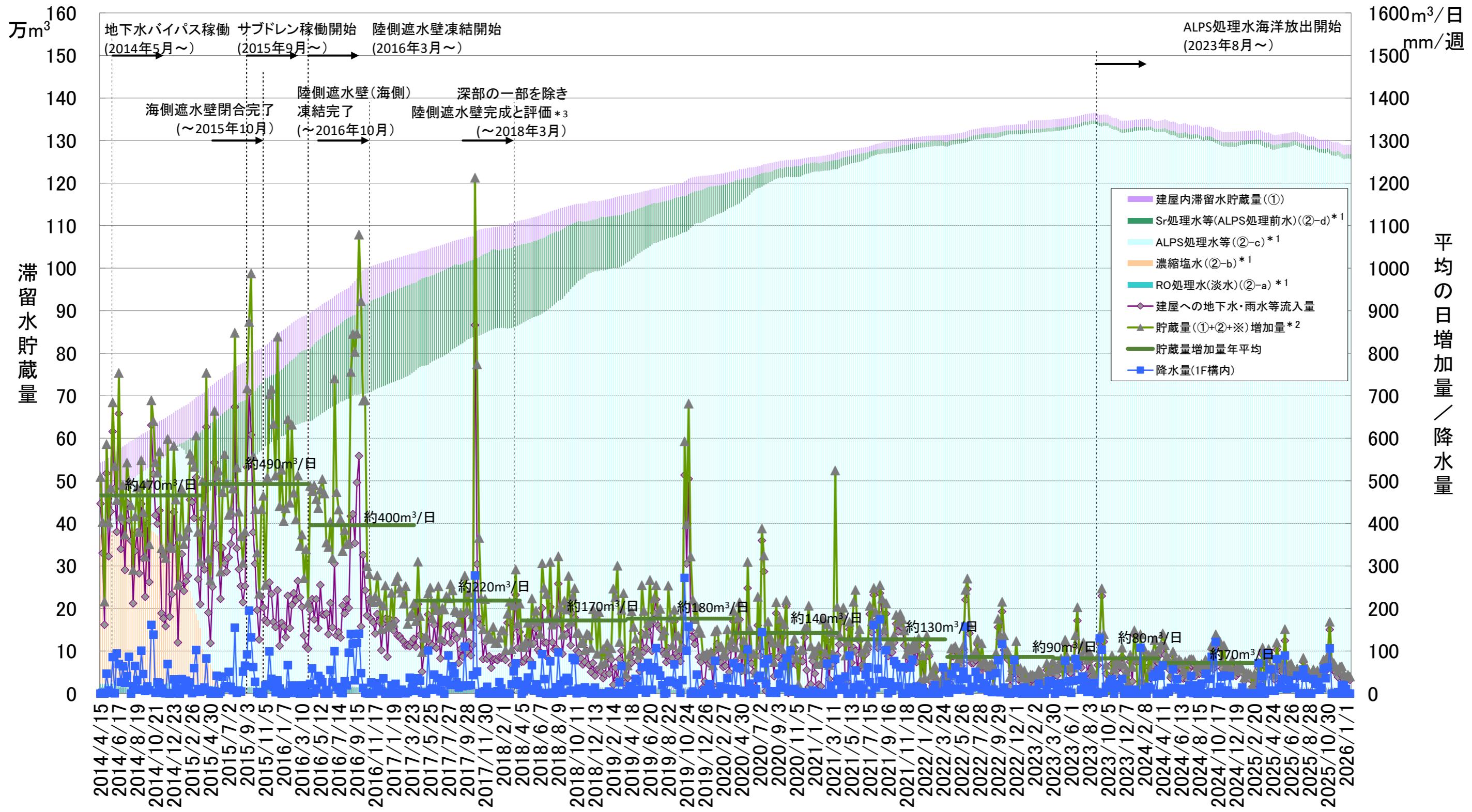
注2) 処理量0 m³の内訳はRO濃縮塩水処理量0 m³、Sr処理水処理量0 m³、処理水処理量0 m³、

薬液注入量他0 m³注3) を含む

注3) 処理水を用いて粉体を溶かし生成している薬液量(0 m³)を含む。

注4) 設備の出口積算流量計を基に算出

滞留水の貯蔵状況の推移(長期グラフ)



①: 建屋内滞留水貯蔵量(1～4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(A)、SPT(B)、1～3号機CST、バッファタンク)

②: 1～4号機タンク貯蔵量

([②-aRO処理水(淡水)]+[②-b濃縮塩水]+[②-cALPS処理水等]+[②-dSr処理水等(ALPS処理前水)])

*: タンク底部から水位計0%までの水量(DS)

*1: 水位計0%以上の水量

*2: 汚染水発生量の算出方法で算出 [(建屋への地下水・雨水等流入量)+(その他移送量)+(ALPS薬液注入量)], ALPS処理水の放出量は加味していない

*3: 深部未凍結箇所3箇所については、2018年9月までに凍結完了